

公開実用 昭和64-35849

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U)

昭64-35849

⑪ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和64年(1989)3月3日

B 65 D 35/02
1/02

F-8208-3E
C-6902-3E

審査請求 未請求 (全 頁)

⑭ 考案の名称 可撓性容器

⑮ 実 願 昭62-124616

⑯ 出 願 昭62(1987)8月17日

⑰ 考 案 者 武 政 勝 則 東京都港区芝3丁目16番14号

⑱ 出 願 人 武 政 勝 則 東京都港区芝3丁目16番14号

明 細 書

1. 考案の名称

可撓性容器

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 可撓性を有する袋状の容器の一端に着脱式の吐出口を形成する共に、該容器の他端に内容物を入れるための開閉自在な開口部を形成したことを特徴とする可撓性容器。

(2) 吐出口に、スクリュージャップを設けたことを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項記載の可撓性容器。

(3) 開口部が、密閉式チャックであることを特徴とする実用新案登録請求の範囲第1項又は第2項記載の可撓性容器。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、自家製のジャム、マヨネーズ、クリーム等の流動性を有する内容物を容易に充填することができるように開閉自在な開口部を有する可撓性容器に関するものである。

〔従来の技術〕

従来より、家庭で作る自家製のジャム、マヨネーズ等は、蓋付きガラスビン又はタッパ―ウエア等の密閉可能な容器に充填して冷却保存していた。

〔考案の解決しようとする問題点〕

しかし、ガラスビンは、充填する時に、その口が狭いものでは、その充填が困難であり、内容物を使用するたびに、スプーン、スパーテルを用いなければならず、煩雑になるという欠点があった。特に、自家製のジャム等は、保存料を添加しないため、蓋を開けるたびに雑菌が混入し、腐敗やかびが生えやすく、冷蔵庫で保存しても長期間の保存は不可能であった。

また、容器のまま手軽にマヨネーズやクリーム等を使用することができる可撓性容器が望まれていた。

本考案は、上記問題点に鑑みて創案されたものであり、容器の一端に広く開く開口部を形成し、流動性を有する内容物を充填し易い可撓性容器を

提供することを目的とする。

〔問題を解決するための手段〕

本考案に係る可撓性容器は、可撓性を有する袋状の容器の一端に着脱式のスクリュウキャップ等から成る吐出口を形成する共に、該容器の他端に内容物を入れるための開閉自在なチャック等で構成された開口部を形成するという手段を講じている。

〔作用〕

而して、開口部のチャックを広く開けば、流動性を有するジャム、クリーム等の内容物を容易に充填することができる。

一方内容物を使用又は食する場合は、吐出口のスクリュウキャップを外して、容器全体を押圧すれば、充填した内容物を吐出口から吐出することができる。

〔実施例〕

以下、本考案に係る可撓性容器の実施例を図面に従って説明する。

図面において、1は合成樹脂等の透明なラミネ

ートフィルムから成る容器本体、2は吐出口、3は開口部である。該吐出口2は、容器本体1の一端に形成した吐出筒4に螺着又は圧着する。更に、該吐出口2の先端にはスクリュー式又は圧着式のキャップ5を設ける。

容器本体1の他端には、チャック等からなる開閉自在な開口部3を形成する。該開口部3を構成するチャックは、線状に形成し開けば容器本体1の内周と略同程度に開けられるように構成する。開口部3の噛み合わせは、第2図に示す要部断面図のように嵌合式に構成し、密閉性を高める。

本考案を使用する場合は、第3図(a)、(b)に示すように、先ず、吐出口2を吐出筒4に嵌着する共に、該吐出口2にキャップ5を嵌合する。次に、開口部3を広く開けた状態で、ここからジャム、クリーム等の流動性を有する内容物6を充填し、該開口部3を閉じる。

内容物6を使用又は食する場合は、キャップ5を開け、容器本体1の一部を押圧すれば、内容物6を吐出口2から吐出させることができる。

なお、クリーム等を充填して、デコレーションケーキを作りたい場合は、第4図に示すように吐出口2の形状を丸形以外に、例えば星形、平形に形成することは適宜である。

〔考案の効果〕

本考案に係る可撓性容器は、以上のように構成したから、流動性を有する内容物を充填し易いと共に、それを手軽に使用又は食することができる。

また、内容物を使用又は食する時に、内容物に雑菌が触れることないので、腐敗しにくい等本考案実施後の実用的効果は極めて大きい。

4. 図面の簡単な説明

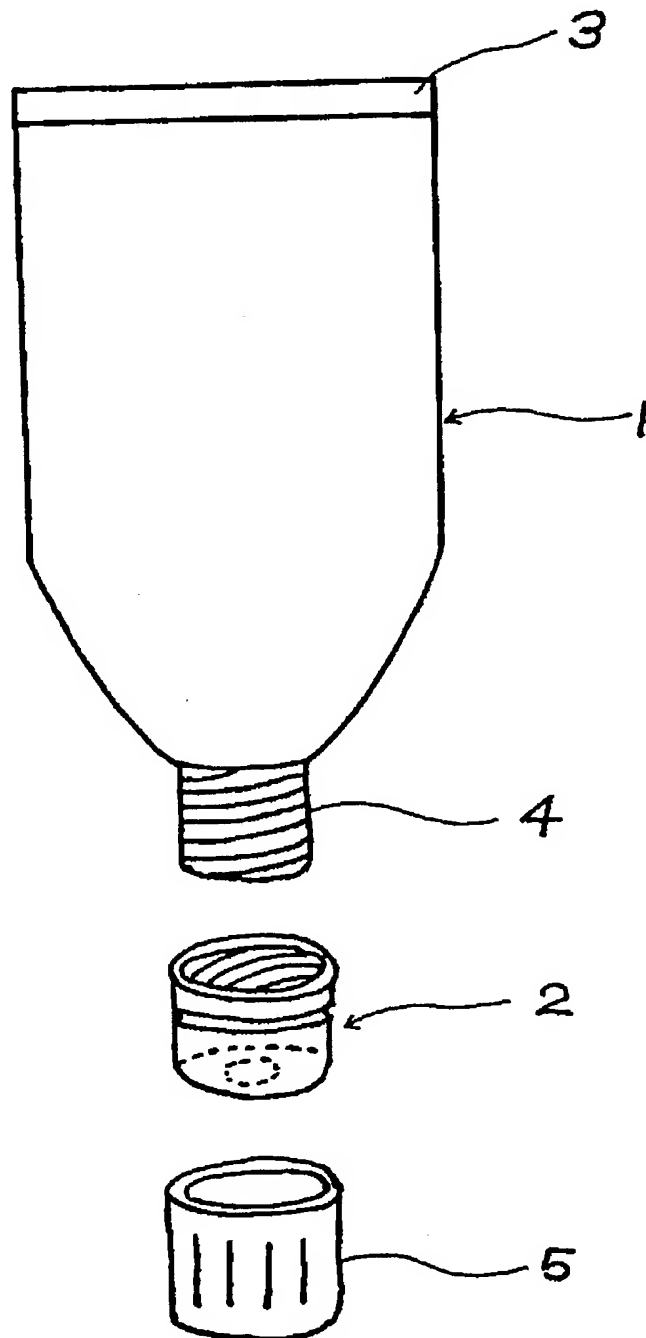
第1図は本考案に係る可撓性容器の分解斜視図、第2図は開口部の要部断面図、第3図は容器本体に内容物を充填する方法を示す斜視図であり、(a)は開口部を開いた状態を示す斜視図、(b)は開口部を閉じる状態を示す斜視図、第4図は吐出口の他の実施例を示す斜視図であり、(a)は星形の吐出口を示す斜視図、(b)は平形の吐出口を示す斜視図である。

- | | |
|-----------|---------|
| 1 … 容器本体部 | 2 … 吐出口 |
| 3 … チェック | 4 … 吐出筒 |
| 5 … キャップ | 6 … 内容物 |

実用新案登録出願人 武 政 勝 則

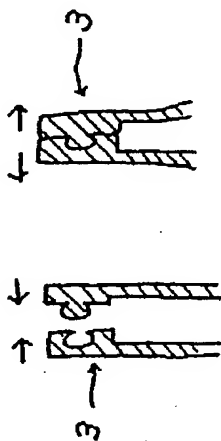
第 1 図

- 1 … 容器本体部
- 2 … 吐出口
- 3 … チャック
- 4 … 吐出筒
- 5 … キャップ
- 6 … 内容物



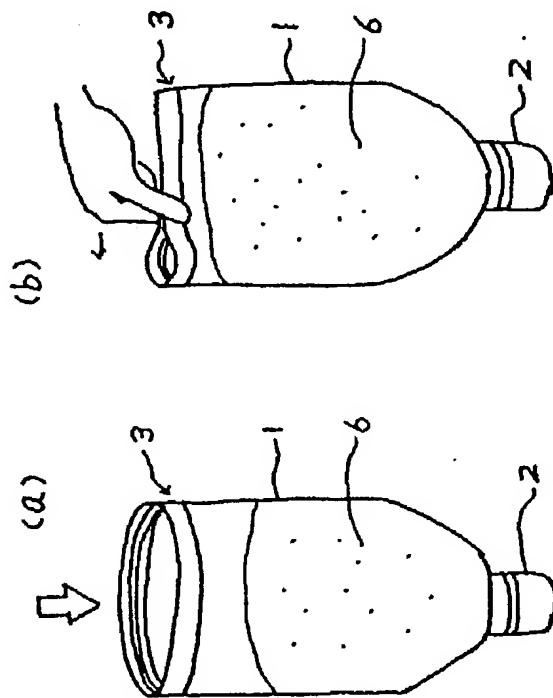
実用新案登録出願入 694 武政勝
 実開 64-35849

第2図



- 1...容器本体部
- 2...吐出口
- 3...チャック
- 4...吐出筒
- 5...キップ
- 6...内容物

第3図



實用新案登録出願人 武政勝則

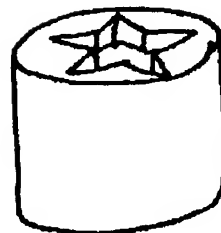
695

特許庁 昭和64-35849

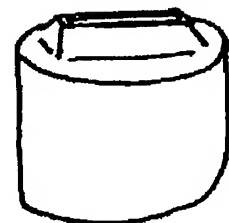
第4図

- 1…容器本体部
- 2…吐出口
- 3…チャック
- 4…吐出筒
- 5…キャップ
- 6…内容物

(a)



(b)



実用新案登録出願人 正

696 申請人